

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-08

学校名・団体名	龍ヶ崎市立久保台小学校
HPアドレス	http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/school/kubodaisyou/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	外国語活動の充実によるコミュニケーション力 育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>グローバルな人材育成を図るために外国語活動を低学年のうちから行うことは、友だちや先生とかかわる頻度や密度を多くすることになる。英語を使うことで誰とでも会話をするようになる児童は、友だちについて理解を深め、温かな人間関係を築くことにつながる。外国語活動の充実により、「英語への慣れ」「国際理解の促進」にとどまらず、いじめ問題の発現の低下にもつながるものと考え</p>	

<4月>

○「英語が見える環境」づくり

児童昇降口から階段に至る壁面に英語学習に関係する掲示板を設置した。授業で使用した絵などを掲示することで、振り返りにも効果をあげている。

また、階段のステップには、数字・天気・曜日などの英単語を絵とアルファベットで掲示した。初日には歓声を上げて階段を見上げる児童が多くいた。



<5月>

①全学年での外国語活動実施についての校内検討会

年間授業時数の確認、15分モジュールによる授業についての意見交換

②教材(絵カード)の作成

授業の進度に合わせて、レッスンで使用する教材を作成した。デジタル教材の提示装置が未整備のため、アナログや実物を用いた授業を優先して実施することにした。視覚教材の提示で、児童の関心が高められている。

<6月>

○5・6年外国語活動における15分モジュールの実践について検討

Hi, friends! のレッスン内容との関連づけ、イングリッシュタイム(ET)のプログラムづくり

6/25 6年外国語活動の授業公開(モジュール外国語提案授業)と研究協議の実施

龍ヶ崎市教育委員会の英語教育スーパーバイザー、龍ヶ崎市教育研究会のスキルマスターティーチャーから助言指導を受ける。レッスンの学習計画と連動したモジュールの設定により、学習した表現を使う場を増やす取組について、一定の評価を得る。

15分モジュールで、児童は歌・カードゲーム・スリーヒントクイズの3つの活動をこなし、授業時間のほとんどで英語を使っていた。友達や先生と英語で対話する活動を楽しんでいた。



<7月>

○ETのレスンプランについて外国語活動部会において検討

7/27 ETのレスンプランについて訪問指導

モジュールで外国語活動を先行実践しているつくば市教育委員会指導主事から、レスンプランについて助言指導を受ける。

<8月>

①ETの実践について校内研修

文部科学省作成のDVD視聴により、外国語活動の授業のイメージを全職員で研修

8/7 外国語活動主任によるデモンストレーション、クラスルームイングリッシュの実践練習

外国語活動主任が中心となり、校内研修において外国語活動の授業実践やクラスルームイングリッシュの使い方を全職員で研修する。また、文部科学省作成の授業実践資料映像のDVD視聴をする。

外国語活動の授業実践には「自信がない」と回答する先生方が、授業のイメージをもつことができた。クラスルームイングリッシュについても、どの程度の英語を使うことがよいのか、という共通理解ができたことは有効であった。



②イングリッシュルームの作成

校内環境整備により音楽室Iをイングリッシュルームとして整備。壁面を英語の学習や国際理解教育に関連する教材で飾り、メモ台付イスを設置する。

イングリッシュルームに場所を移して授業を行うことにより、ICT機器の準備の手間が削減されるだけでなく、児童の学習への意識が変わってきた。机がないため、英語を使う活動を行う際にも、教室を広く使用することができる。

〈9月〉

○ET のレッスンプランについて外国語活動部会において検討

〈10月〉

○ET の試行

外国語活動主任と担任のティームティーチングにより、15分モジュールの ET を試行

15分モジュールの短い時間の ET は児童が集中して取り組めるようだ。各クラスで、元気な声が聞こえ、充実した朝の学習を展開できている。回数を重ねるにつれ、児童が英語に慣れるだけでなく、ティームティーチングをする担任にも変容が見られる。

〈11月〉

○ET 提案授業の準備

11/27 ET 授業公開及び小学校外国語活動推進校授業公開

龍ヶ崎市近隣の小学校から 50 名が参観した授業公開を行う。
土浦市教育委員会指導主事から助言指導を受ける。

龍ヶ崎市近隣でモジュール外国語活動の実践は先駆的なものであるため、研究協議においても多くの質問が出される。児童はこれまでに積み重ねてきた外国語活動の成果を発揮して、多くの参観者にもかかわらず、英語を使った元気な活動をすることができた。さらに自信にもつながったようだ。



〈12月以降〉

○ET レッソンの試行と次年度へのプログラム検討

〈児童の様子〉

○いじめ問題の発現について

問題視される人間関係のもつれやいじめ事象は昨年度に比して激減した。これは学級経営に依るところが大きい。外国語活動を通して友達と関わるのが頻繁になるために改善したとも言えよう。

○不登校児童について

平成 27 年度における 10 日以上欠席者（病気原因を除く）はゼロ（2/29 現在）である。